
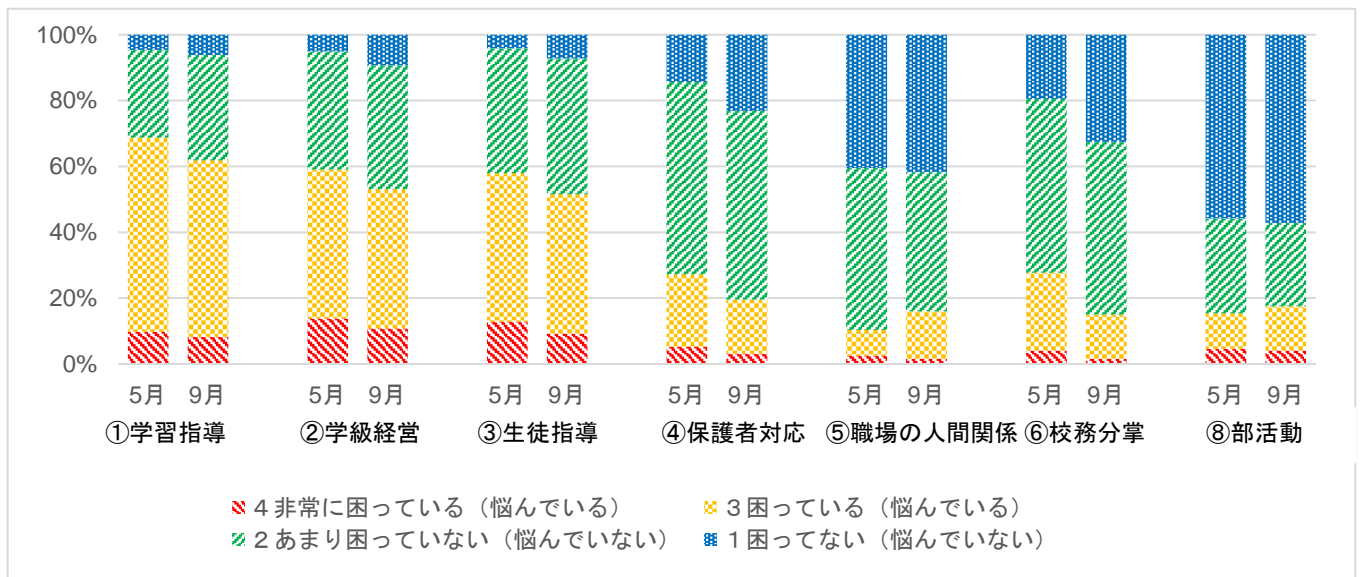
 **学び合い、育ち合い、高め合う組織づくりに向けて**
— 初任者アンケートから — 

初任者の困り感や悩み等の現状を把握し、今後の研修等による適切なサポートにつなげるため、5月に続き9月に第2回アンケートを実施しました。各対象者、学校には御協力いただきありがとうございます。必要に応じて、結果を個別にお返ししましたが、本アンケート結果から「初任者の困りごと・悩み」についてお伝えするとともに、参考にしていただきたい情報をお伝えします。

○「初任者の困りごと・悩み」について

「現在、仕事に関することで困っていることや悩んでいることはありますか。」という質問について、①から⑧の項目ごとに4つの選択肢の割合を5月(1回目)と9月(2回目)で比較しました。

困りごと・悩みについて



① 授業に関すること、②学級経営・ホームルーム経営に関すること、③児童生徒に関することについては、非常に困っている(悩んでいる)、困っている(悩んでいる)と回答した初任者の割合が高いことがわかります。この3つの項目を5月と9月で比較すると、割合が若干減少してはいますが、依然高い割合を示しています。

第2回の調査において、「特別な配慮を必要とする児童生徒について」も調査したところ、3つの項目と同様に高い割合を示し、比較的多くの初任者が抱える困り感の一つと言えます。初任者一人一人の困り感を含めた日々の取組の様子を把握し、継続的に指導支援を行うことが大切です。

また、「学校の教職員の中に、安心して話ができる人がいますか。」という問いに、9割以上の初任者が「いる」と回答しています。初任者が、困り感を抱えながらも、学年主任をはじめとする同学年の教員、指導教員、教務主任、管理職など、先輩の教職員に安心して聞いたり、学んだりしながら、取り組めていることがうかがえます。

メンター方式で初任者研修を行っている小学校、中学校、義務教育学校では、困ったり悩んだりした時に校内で相談する相手として、メンターチームのメンバーもあげており、メンターチームが支えになっていることが分かります。

前回は、授業づくりに関わるメンターチーム研修について紹介しましたが、学級経営や生徒指導をテーマにしたメンターチーム研修も行われています。

「学級経営」や「生徒指導」に関わるメンターチーム研修の例

【倉吉市立東中学校】学級のルールづくりのポイント～おさえておきたいルール・学期の折り返し編～

- ・崩れやすいルールやおさえておくべきルールについて、ルールの定着に向けて大切にしていることについて成功例、失敗例などを紹介し合う。質疑応答をし、今後実践したいことを共有する。

【米子市立福生中学校】子どもとの関係づくり

- ・生徒との関係づくりにおいて、普段心がけていることについて、これまで関わった生徒指導の事例とその対応について紹介し合う。質疑応答をし、今後実践したいことを共有する。

来年度から、全ての初任者配置小学校、中学校、義務教育学校において、「とっとりメンター方式」による初任者研修を行います。今後も、メンターチーム研修を活用した効果的な人材育成の取組を期待しています。

【中学校・高等学校学級経営研修】

認め合い高め合う人間関係づくり

～「主体的・対話的で深い学び」の礎となる学級・ホームルーム経営～



初任者アンケート「初任者の困りごと・悩みについて」で、困っている（悩んでいる）と回答した初任者の割合が高い項目に、「学級経営・ホームルーム経営」があります。そこで、困りごとの解消に向けた手掛かりにさせていただくために、本年度実施した【中学校・高等学校学級経営研修】の講義内容を紹介します。講師は立正大学の鹿嶋真弓教授です。

「承認」の声かけで「認める指導」を

承認とは、「私はあなたの存在をそこに認めている」ということを伝えるすべての行為や言葉です。

- ・存在承認…見る/挨拶/肯定的な思いを伝える/強みをいう/名前を呼ぶ/いいところを伝える
- ・行為承認…事実を伝える/励ます/感謝を伝える
- ・結果承認…ほめる/賞を与える

子どもは先生に認められるために学校に来ています。「学級経営・ホームルーム経営」において、何かが起きてから対処する後追いの指導ではなく、子どもの小さなプラスの変化を見逃さず「承認」の声かけを行い、子どものできている行動に焦点を当てた認める指導を日常から予防的にはたらきかけていくことが大切です。認める指導により、子どもの良いところ・できているところを伸ばしていくことにつながります。

「子どもの言葉で問いをつくる授業」で主体的対話的で深い学びへ

主体的対話的で深い学びの実現に向けて、子どもの言葉で問いをつくる授業を実践することが有効です。次のような効果が期待できます。

- ① 子どもの考え続ける力、考え抜く力を伸ばす
- ② 意欲的な授業への参加【自我関与】
- ③ 互いに考えを尊重し合うことで、認められる体験をする【自己存在感/共感的人間関係】
- ④ 質問の分類【メタ認知】
- ⑤ 質問の選択【自己決定の場】

初任者の困りごとを基に、受講された専門研修の学びをメンターチーム研修において共有し、困りごとの解消に向けて意見交換されるのもよいのではないのでしょうか。

教育センターでは、アンケートをもとに教育相談の希望者等に、必要に応じて面談を行っています。研修時には、グループで協議する「初任者タイム」で、初任者同士のつながりをつくったり、研修後に希望者が協議や相談を行う「ココカラ部」を開催したりしています。初任者所属校訪問の際には、学習指導とともに、困りや悩み等について聞き取っています。

今後も、市町村教育委員会や学校と引き続き連携しながら、初任者をはじめ若手教員の指導支援を進めていきたいと思っております。各学校でも、引き続き初任者とともに学び合い、育ち合い、高め合う組織づくりを進めていただきたいと思います。